令和３年度学校自己評価システムシート（さいたま市立大宮国際中等教育学校）

（学校番号　５０１）

目指す学校像	大宮国際中等教育学校は、よりよい世界を築くことに貢献する地球人の育成を目指しています。 そのため、学校生活のあらゆる機会を通して、未来の学力を備え国際的な視野を持つ生徒の育成を目指します。

重点目標	１　学校教育目標等に示される生徒の属性を具現化することを最重点に据え、エビデンス・ベースで全ての教育活動を計画し、実践し、評価し、改善する。 ２　国際バカロレアＭＹＰ認定校として概念を中心とした探究学習を充実・発展させ、ＤＰ候補校として２０２２年度内のＤＰ認定に向けた取組を進める。 ３　前期課程３学年が揃った生徒の主体的な活動を一層促進し、生徒自らが進んで健康で有意義な学校生活の構築に積極的に関わる態度を身に付けさせる。 ４　保護者・地域・学校評議員、国内外の大学やＩＢ校、関係機関など、本校の学校コミュニティと広く連携し、支援や助言を受けながら実践を改善する。

達成度		
	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分　（４割未満）

※重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○前年度の学校関係者評価では「内外の評価を踏まえ、学習の基盤づくりに対して、教員と生徒が工夫と改善を繰り返しながら取り組んでいること」が「高く評価」された。しかし、一方で「他校との比較や本校内のデータが無いため印象論や頑張っている論に留まっている」とされ、「他校との比較項目として、校内及び校外研修、カリキュラム、教育方法、基礎知識と探究のバランス、各教科の取組をデータで明示し、共有の上、教師の経験や授業観察結果等を交え、本校の長所と課題を提示すること」を求められた。 ○前年度の学校関係者評価では「教員の働き方改革も含めて活動全体を持続可能な取組としていく必要がある」との意見を得た。しかし今年度４月の勤務時間外在校時間では、長時間在校者が極めて多い。	⑴エビデンスに基づく本校の長所と課題の確認 ⑵ＩＣＴを日常的に活用した学習活動の推進 ⑶後期課程の教育課程編成とコース・科目選択の適切な指導 ⑷勤務時間外長時間在校者の減少	①生徒・保護者・教職員による学校評価アンケートを各学期末に実施 ②外部模擬試験等の結果分析 ③保護者による「仕事塾」の開催 ④全ての教科・道徳・特別活動等での日常的なＩＣＴの活用 ⑤不測の事態に備えたオンライン・オンデマンド授業の準備 ⑥探究サイクルを活用したコース・科目選択の仕組みづくり ⑦学年毎のキャリアガイダンス ⑧ポートフォリオ検討会での生徒によるプレゼンテーション ⑨土曜勤務の振替・調整の完全実施 ⑩定時＋α退勤デーの設定	①学校評価アンケートの実施回数・回答率・肯定的評価の割合 ②分析結果の全国比較等 ③「仕事塾」の開催回数・参加生徒数・生徒による肯定的評価 ④学校評価アンケートにおける肯定的評価の割合 ⑤エバンジェリストによる研修実施回数と全教員の参加率 ⑥完成度・取組易さ・学校評価アンケート・Daily Reflection ⑦実施回数・参加生徒数 ⑧プレゼンテーションの内容と保護者・担任の理解度 ⑨月毎の勤務時間外在校時間が４５時間未満の職員の割合 ⑩平日午後６時までの退勤者数				
2	○ＭＹＰでの概念学習・探究学習・協働学習は、開校２年を経て向上してきており、今年度ＭＹＰ認定校となった。しかし、ＩＢＯによる確認訪問で指摘された「世界標準の探究活動の姿」を意識して、さらに実践を改善する必要がある。 ○ＤＰ認定に向けての準備作業が今年度の大きな課題であり、その準備に当たる教員を校内人事として配置した。しかし、そこには全教員の連携と協働が不可欠である。	⑴ＩＢ先進校における実践事例の収集 ⑵学際的単元の拡充に向けた取組 ⑶ＤＰ認定に向けた校内研修の実施と認定申請	①国内外のＭＹＰ・ＤＰ実践校との情報交換の促進 ②先進校視察（場合によりオンラインも含む） ③全教員が他教科の授業を年に３回以上見学し意見交換 ④次年度に全教科(情報を除く)全学年で実践するための準備 ⑤年間行事計画に校内ＩＢ研修会を位置付け、年間10回開催 ⑥認定申請	①情報交換できた学校数・回数 ②視察できた学校数・回数 ③授業見学回数（39×3=117） ④次年度のUnitPlanner、カリキュラムマップに各１Unitを設定 ⑤開催回数・参加率 ⑥認定申請の可否				
3	○前年度の学校関係者評価では「教科と関連付けた探究活動の成果発表会から、生徒が教科と社会とのつながりを意識し、主体的に学ぶことに向かう様子が見受けられた」との評価を得た。 しかし一方で「生徒が課題にかける時間や労力の問題は、学習の内容だけでなく、生徒の生活の質全般well-beingにも関わってくる」との意見を得た。	⑴学習・文化・スポーツなど様々な体験機会の提供 ⑵生徒自身による主体的活動の活性化の促進	①After School ActivitiesやＬＤＴにおけるWorkshopの開催 ②市教委や外部団体主催のコンテスト等の紹介と参加促進 ③生徒会執行部を中心とした国公立ＩＢ校とのオンライン交流 ④授業構成の見直しと課題精選による生徒のwell-beingの向上 ⑤委員会活動等を通した生徒の心身の健康維持のための取組	①参加した生徒数と開催した生徒数（実・延べ） ②参加した生徒数（実・延べ） ③交流した学校数（実・延べ） ④課題提出状況・学校評価アンケート・Daily Reflection ⑤出欠席・健康観察・感染症対応・教育相談等の状況				
4	○上記１～３の現状と課題を踏まえ、本校の取組を発展・向上させるには、様々な外部団体等と、オンラインを含めて連携する工夫が必要である。 ○学校公開が難しい中、前年度の学校関係者評価では「ホームページについて、見やすさ分かりやすさを追求し、社会への情報発信の窓口としてより活用し、本校の教育活動を積極的に広めてもらいたい」との意見を得た。	⑴他校や外部機関との連携・協働・交流の促進 ⑵ＩＣＴの活用による情報発信	①国内外の学校・企業・公的機関・ＮＰＯ等との連携等の促進 ②国公立ＭＹＰ認定５校の連携 ③コミュニティスクールの準備 ④毎課業日のホームページ更新 ⑤複数のチャンネルを活用した生徒の取組や成果の情報発信 ⑥保護者による確認・理解促進 ⑦保護者説明会・学校説明会等の開催方法の工夫	①連携・協働・交流した団体数（実・延べ） ②５校間での連携協定締結 ③２月末までに準備完了 ④年間更新回数 ⑤発信コンテンツ数・視聴数・学校評価アンケート ⑥保護者による利用状況 ⑦オンライン等の併用・視聴数・学校評価アンケート				